

「もりおか福祉ブランド」の PR 支援企画

岩手大学教育学部 芸術文化課程 映像メディア研究室

学生代表：鈴木里歩、田村安理奈

指導教員：本村健太

序

社会福祉法人 盛岡市社会福祉事業団事務局より、「もりおか福祉ブランド」（障がい者施設で製作している製品等）の推進事業の一環として、若者をターゲットにした福祉イベントの共同企画を通し、もりおか福祉ブランドの周知と障がい者理解の促進を図ることが基本的な課題として提案された。そこで、本件を実施するに当たり、映像メディア研究室（芸術文化課程）の学生には、もりおか福祉ブランドを紹介するビデオ制作、そしてさらに「障がい者週間」のイベントに関する共同企画についても求められることとなった。

映像メディア研究室において、ビデオ制作は所属学生の扱う表現領域の一つであり、過去にも地域の課題のために映像制作を実施した成果がある。研究課題として学生が本件に取り組むことは、学生にとっても個人制作に陥りがちな表現を地域や福祉のために役立てられる好機となるに違いない。また、もりおか福祉ブランドの PR 支援活動の促進そのものが地域にとっても有意義なものとなるため、研究室全体で本研究に取り組むことにした。

I. 本研究課題について

（実施計画・方法）

盛岡市社会福祉事業団事務局との打ち合わせを重ね、まず、もりおか福祉ブランドを紹介するビデオ制作を実施する。そのために、撮影及び映像編集のための安価な機材、また映像の効果のためのイラストや造形物のための消耗品を予算の枠内で購入し、学生の映像制作ができるように検討する。研究室所属学生は撮影班、編集班の分担あるいは兼担で配置する。若者の同製品に対する関心及び障がい者の自立支援に対する理解の認識を促進するために、制作した映像をどのように利用したらよいかも検討する。

本研究のリーダーとなる学生は、他の学生をまとめつつ、盛岡市社会福祉事業団事務局の主導の下で「障がい者週間」に関連のイベント企画を共同で練り、イベント実施に補助的に関わるように努力する。



図：もりおか福祉ブランドのロゴマーク

もりおか福祉ブランド：

盛岡市及びその近郊の福祉事業所で作られている製品を総称して「もりおか福祉ブランド」（盛岡の頭文字 M とハートをモチーフにしたロゴマーク）と呼ばれている。取り扱う商品・作業は様々であるが、ほとんどの施設ではそれらの販売売上金から原材料費・諸経費を引いたものを、工賃として福祉事業所で働く障がいのある方々に支給している。また、福祉施設の製品は、手作り・地産地消・安心・安全・無添加など、それぞれにこだわりのある商品であり、一般企業にも負けないような高品質・低価格のものが作られている。しかしながら、これらのことが一般的にはあまり知られておらず、販路は狭く、売り上げは少ないため、工賃が低いままであるのが現状となっている。そこで、盛岡市社会福祉事業団では、平成 21 年度より盛岡市の事業委託を受け、福祉事業所に対し販路拡大等の支援を行い、障がいのある方々の工賃アップを目的に様々な取り組みを行っている。

映像メディア研究室では、この支援活動を応援すべく、盛岡市社会福祉事業団事務局のコーディネーター工藤路実（くどう みちみ）氏との打ち合わせを重ねた結果、以下のようなことが主な取組事案となった。

- 「もりおか福祉ブランド」を紹介するビデオ制作（研究室所属 4 年生を中心に活動）
- 「障がい者週間」のイベント企画・補助（研究室所属 3 年生を中心に活動）

II. 今年度における研究活動の経過について

研究計画の調整のため、2013 年 6 月 13 日（木）に岩手大学教育学部 3 号館映像メディア演習室にて、研究室所属 3・4 年生が工藤氏との初回の打ち合わせを行った。その際に、本件に関わる学生がもりおか福祉ブランド関連施設を把握するため、また、映像等に必要になる取材のため、市内各所の施設見学をすることとなった。



図：映像メディア演習室にて初回の打ち合わせ（2013 年 6 月 13 日）

施設見学については、工藤氏に仲介をお願いし、以下のような施設の見学（取材）を実施することとなった。

「杜のカフェ」、「盛岡市立しらたき工房」、「となんカナン（Cafe おーでんせ）」、「さんさ裂き織り工房」、「喫茶 夢つむぎ城南」、加えて、もりおか福祉ブランド主催ではないが関連のイベント「ナイスハートバザール in いわて」

平成 25 年度地域課題解決プログラム

○「杜のカフェ」(特定非営利活動法人 フラット寺町 ファーム仁王)

場所：いわて県民情報交流センター アイーナ 4 階



図：杜のカフェにて試食しながらの取材（2013 年 7 月 18 日）
（右下：いわて県民情報交流センターにおける展示閲覧）

○「盛岡市立しらたき工房」(指定知的障害者支援施設)

場所：盛岡市川目 15-1-6



図：しらたき工房の取材（2013 年 7 月 25 日）

平成 25 年度地域課題解決プログラム

○「となんカナン (Cafe おーでんせ)」(社会福祉法人カナンの園)

場所：盛岡市津志田西 2-16-91



図：となんカナンの取材 (2013 年 11 月 11 日)

○「さんさ裂き織り工房」(株式会社 幸呼来〔さっくら〕Japan)

場所：盛岡市東新庄 1-23-30



図：さんさ裂き織り工房の取材 (2013 年 11 月 11 日)

平成 25 年度地域課題解決プログラム

○「喫茶 夢つむぎ城南」(社会福祉法人千晶会)

場所：盛岡市神明町 8-4



図：夢つむぎ城南の取材（2013 年 11 月 11 日）

○「ナイスハートバザール in いわて」(岩手県社会福祉協議会 障がい者福祉協議会)

場所：イオンモール盛岡南



図：もりおか福祉ブランド主催ではないが関連イベントの取材（2013 年 11 月 11 日）

平成 25 年度地域課題解決プログラム

2013 年 8 月 1 日に開催した工藤氏と学生の打ち合わせにおいては、実施内容を下記のようにまとめた。

1. 映像について

店舗内で利用出来るような商品自体を PR する短めの CM 用ビデオと、もりおか福祉ブランドの背景を説明するような長めの紹介ビデオの 2 本を製作する。今後、施設の様子などをもっと少し詳しく視察するため、9 月中旬以降に更に施設見学を行う。

2. イベントについて

広く一般を対象としたイベントにするためには、平日より土日のほうが人が集まりやすいこと、障がい者週間（12/3～9 日）を PR するためにもその直前の週末 12/1（日）にイベントをアイーナ 4 階オープンスペースで開催する。

「ぺちやくちゃナイト」だけでは関係者だけの集まりになりかねないので、一般の方も興味を持てそうなカフェや施設商品の絵付けなどの体験コーナー、美術系の強みを活かしたワークショップの開催も入れる。平面デザインも得意なので、カフェ内でデザインの発表の場を兼ねる。

※「ぺちやくちゃナイト」とは、講演者が 20 枚のスライドを 1 枚あたり 20 秒を使ってプレゼンテーションを行うイベントのことである。

この段階で予定したイベント内容は、以下の通りである。

- ①杜のカフェでのデザイン物紹介（トレイに敷くシート・コースター、メニュー表など）
- ②体験コーナー（施設に協力を依頼）
- ③ワークショップ（来場者参加型でできるもの）
- ④ぺちやくちゃナイト（スライド映像まとめ作業）

そして、このイベントのポスター・チラシ作成についても学生のデザイン制作の訓練にもなるので積極的に関わることにした。2013 年 9 月 12 日に改めて工藤氏と学生の打ち合わせを実施し、主にワークショップ内容とスケジュールについて話し合った。その後、イベントに向けて準備をしていく間に学生の仕事量が増大し、過重負担となってしまったので、指導教員の指示により、実施目的や対象が曖昧であったワークショップを外すなど、質を落とさずに実施できる内容に縮減した。

1. もりおか福祉ブランドのビデオ製作と発表

2. イベントの補助作業

- ①ポスター・チラシ作成
- ②アイーナ内「杜のカフェ」で使用するトレイシートの製作
- ③ぺちやくちゃナイトの画像編集

その後もすでに示した通り、11 月中の施設見学等の機会もあり、工藤氏と学生の打ち合わせを重ねつつ、イベントの開催に向けた企画や実施補助の準備を行った。

平成 25 年度地域課題解決プログラム

III. 成果

研究室学生が積極的にに関わり、企画や準備を補助したイベントは下記のように結実した。
また、イベント当日も研究室所属の 3・4 年生全員で実施の補助を行った。

○「もりおか福祉ブランド 地域応援フェスタ in Morioka リカバリーミーティング 2013」

日時：2013 年 12 月 7 日（土）・8 日（日）10：30～16：30

会場：アイーナ 4F. 5F. 6F（岩手県民情報交流センター）

主催：リカバリーミーティングいわて 2013 実行委員会、社会福祉法人 盛岡市社会福祉事業団、
盛岡市、特定非営利活動法人 地域精神保健福祉機構・コンボ

協力：岩手大学、障がい者人材センターらいふ、いわてピュアモール、杜のカフェ、
一般社団法人 東北音楽療法推進プロジェクト”えころん”、盛岡ハートネット



図：イベント会場の様子（2013 年 12 月 8 日）

平成 25 年度地域課題解決プログラム

○「もりおか福祉ブランド 紹介ビデオ発表&試食会」(12月8日 13:00~13:30)



図：イベント会場には研究室所属学生（3・4年生）が全員出席（2013年12月8日）



図：イベント会場での試食会の様子（2013年12月8日）

平成 25 年度地域課題解決プログラム



もりおか福祉ブランドの紹介ビデオ発表は、こんな感じで、
アイーナの県民プラザでオープンな雰囲気の中、行われました！



素敵な仕上がり!!
岩手大学の映像メディア研究室の皆さん、
どうもありがとうございました!!!!

近いうちに、色々な場面で活用されると思いますので、
きっと皆さまにも見ていただけたと思います!!!

図：もりおか福祉ブランドブログ（2013 年 12 月 11 日）より
<http://blog.canpan.info/mwbb/archive/44>

障がい者週間記念イベント

参加無料

もりおか福祉ブランド in MORIOKA

地域応援フェスタ

リカバリーミーティングいわて2013

見て
たのしむ!

ベチャくちゃ
ナイト

食べて
たのしむ!

もりおか福祉ブランド
試食会

体験して
たのしむ!

いやし森
ヨガなどの体験

会場 アイーナ 4F 6F 7F
(いわて県民情報交流センター)

2013年

12月7日 土

12月8日 日

10:30~16:30

主催 リカバリーミーティングいわて2013実行委員会/社会福祉法人盛岡市社会福祉事業団
盛岡市/特定非営利活動法人 地域精神保健福祉機構・コンボ

協力: 若手大学/障がい者人材センターらいる/いわてヒューマン/杜のカフェ/一般社団法人東北音楽療法推進プロジェクト「えごろん」

リカバリーミーティング

疲労や困難やこころの病などから回復して、充実した人生を歩むことをリカバリー（回復・快復）といいます。地域全体や人が集ついても、いずれ充実した毎日がやってくることもありますが、リカバリーのきっかけには人のつながりや充実した経験が重要で、そのような機会になればと有志が企画をしました。昨年度にははまり、今年度が2回目です。

もりおか福祉ブランド

盛岡市とその近郊の障がい者福祉施設で作られた製品を総称して「もりおか福祉ブランド」と呼んでいます。手づくり・地産地消・環境に配慮、添加物を使用しないなど、それぞれにこだわりのある商品ばかりです。これら商品の売上は福祉事業所に送る障がい者の方々に「工賃」として支給され、生活費の一部となります。

アクセス

マップ

アイーナ・いわて県民情報交流センター
〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通り1丁目7番1号
東北自動車道 盛岡ICから車で8分
JR盛岡駅から徒歩4分

身障者等用駐車場

身障者用駐車場（無料）
1 箇所 事前に6台
※此の駐車場は、ドアを全開にしなければ乗降することが出来ない、お身体の不自由な方や歩行が困難で介助が必要な方等のための専用駐車場です。

お問い合わせ先

- リカバリーミーティングいわて実行委員会
〒020-0401 盛岡市手代森9-70-1 未来の風せいむ病院内 電話: 019-696-2055 (担当: 安保・野田)
- 社会福祉法人 盛岡市社会福祉事業団
〒020-0886 盛岡市若宮町2-2 盛岡市総合福祉センター2F 電話・FAX: (019)654-8056 (担当: 工藤寛)
- 盛岡市
〒020-8530 内丸12-2 盛岡市保健福祉部障がい福祉課 電話: 019-651-4111 (担当: 菅原)
- 特定非営利活動法人 地域精神保健福祉機構（コンボ）
千葉県市川市平田3-5-1 トノックスビル2F 電話: 047-320-3870 (担当: 久永・橋谷)

本事業は、日本財団の助成を受けております Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

図：3 年生によるチラシの制作補助（表・裏）

図：3 年生による「杜のカフェ」トレイシートの制作補助

平成 25 年度地域課題解決プログラム



図：3 年生による「ぺちゃくちゃナイト」イベントの表紙画像（視認性を重視）

○「第 11 回 もりおか福祉ブランドフェア」

日時：2014 年 2 月 20 日（木）～24 日（月）10：30～19：00

会場：パルクアベニュー・カワトク 7 階催事場

主催：社会福祉法人 盛岡市社会福祉事業団



図：鈴木里歩による映像（卒業制作）をイベント会場にて展示（もりおか福祉ブランドフェア）



図：鈴木里歩「もりおか福祉ブランドの PR を目的とした映像制作研究」より

平成 25 年度地域課題解決プログラム

以上のように、もりおか福祉ブランドの PR 支援活動に関わり、映像メディア研究室の 3・4 年生全員が一丸となって、映像制作、イベント企画、デザイン補助、イベント実施補助を行った。これらの支援活動によって、これまでに全く認識不足であった福祉活動を学生自身が体験することができ、とても有意義なものとなった。ここでの学生の力は微々たるものであるが、ここに改めて、もりおか福祉ブランドの活動が地域の福祉にとって重要なものであることが認識されれば幸いである。そして、その支援活動の輪が益々広がり、より一層活発になっていくことを願う。

○ 本研究成果の映像作品「もりおか福祉ブランドの PR を目的とした映像制作研究」（鈴木里歩による卒業制作）は、「卒業制作展 2014」にて展示。

日時：2014 年 3 月 11 日（火）～16 日（日）10：00～20：00（最終日のみ 17：00 まで）

会場：岩手県民会館第 1・2 展示室

主催：手大学教育学部 芸術文化課程美術・デザインコース

本研究課題を体験して - 学生の主な感想

・映像を制作するに当たって、「若い人にも興味を持ってもらえるように」等の伝えたいイメージを福祉事業団側と共有し、そこからどのような映像を作っていくか、表現の案がなかなか出ず苦労した。また施設が各地に散らばっていたり、商品が豊富なことから、取材・撮影し映像素材を増やすことが難しかった。しかし、もりおか福祉ブランドにはもっと周知されるべきと思える魅力が沢山あったため、映像という媒体でそれを伝えることは難しかったが、やりがいがあった。

・お店の方の要望に応えつつお客さんが見やすいようなデザインを心掛けましたが、両方叶えるのは大変でした。

・様々な福祉施設やカフェを回り、取材することは初めてではありましたが、全体的に、楽しく進めることができました。まず、取材では、もりおか福祉ブランドの商品の裏側を見学し、知ってゆくことで、商品に対する見方が変わりました。CM を制作する上では自分たちが見てきたもの、感じたものをどう映像で表現するか、悩み、苦戦しました。最終的には、自分たちが感じた、暖かみや雰囲気は映像に託すことができました。これが、もりおか福祉ブランドのイメージアップに少しでも繋がればと思います。